

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果  
(平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

国体推進局長 国久 敏弘

項目	実施結果
<p>1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇県民総参加の福井国体【部局連携】 ○国民体育大会と全国障害者スポーツ大会の融合 ・国体と大会の融合を進め、県民や全国からの来県者が幸せを感じることが出来る大会を目指します。</p>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>両大会の融合を推進する全国初の取組みとして、国体開会の約1か月前から障害者スポーツ大会閉会までの期間を「県民スポーツ交流期間」とし、障害の有無に関わらず、スポーツを通して交流できるイベント等を行います。</p> <p>また、両大会の略称を「国体・障スポ」と定め、融合をPRしていきます。略称については、今年度制作した公式ポスター、参加章および記念章のデザインに取り入れました。</p> <p>さらに、国体の会期中に、車椅子バスケットボールと車いすテニスの競技会を開催することにより、全国に向けて融合をPRするとともに、選手、観客等による観戦・応援の機会を作ります。</p> <p>一方、県民の融合への関心を高めるため、今年度、リオオリンピックやパラリンピックに出場した福井県選手等のトップアスリートによるトークセッションや、障害者スポーツ大会の競技である卓球バレーを障害者と健常者が一緒に体験できる教室などを開催しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○各競技会の開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・競技会を円滑に運営できるよう、市町が開催するプレ大会の支援や審判員の計画的な養成を進めるとともに、県外競技の開催地に事務所を設置します。</li><li>・市町に対して既存施設や特設会場の計画的な整備を促し、本県選手の本会場での練習の機会を増やすことにより、競技力向上を支援します。</li><li>・全国から来県する選手・監督等の受入れに向け、宿泊施設の設備等について現地調査を行います。また、宿泊施設において福井のおいしい食を提供するため、県産食材や郷土料理を活かした献立を作成します。</li><li>・選手や監督、観客に快適な空間を提供するため、競技会場のトイレの洋式化などを行います。</li><li>・障害者スポーツ大会の競技を円滑に進めるため、障害者団体や市町、競技団体と協力し、競技会場における選手の動線をバリアフリー化するための設計を行います。</li></ul>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>鯖江市において開催した体操競技のプレ大会の運営に対し支援を行いました。大会で得られた知見や課題を市町や競技団体と共有し、来年度以降のプレ大会および平成30年の競技会の円滑な運営に向けた準備に活かしました。 (プレ大会 28年度:1種目, 29年度:37種目, 30年度:6種目)</p> <p>審判員については、競技団体が開催する審判員養成のための県内講習会等に支援を行い、確保を計画的に進めました。</p> <p>県外競技については、総合年次計画および開催基本計画、輸送・交通、警備・消防の実施計画等を策定し、現地関係団体等との協議等を始めました。 また、9月に馬術競技事務所を御殿場市馬術・スポーツセンター内に開設するとともに、水泳競技については、4月中に金沢プール内に事務所を開所するための準備を進めました。</p> <p>競技会場の施設整備については、県有施設を含め改修等が必要な43施設のうち、今年度は、福井市わかばテニスコートや小浜市民体育館など17施設が完成し、これまでの整備と合わせて29施設が完成しました。 また、既存施設がなく仮設で整備する特設会場10施設のうち、今年度は、福井市スポーツ公園の特設アーチェリー会場など6施設の設計および大野市九頭竜川特設カヌー会場1施設の工事に着手しました。</p> <p>宿泊施設に対して説明会を開催し、客室の更なる提供を求めるとともに、施設や設備、駐車場等の現地調査を行いました。 また、宿泊施設が食事を提供する際の参考とするため、県産食材や郷土料理を活用した献立集を作成し、宿泊施設等へ配付しました。</p> <p>施設利用者の利便性を高めるため、今年度は、競技会場や練習会場として使用する県の12施設において、トイレの洋式化やオストメイト対応設備等の整備を行いました。</p> <p>競技会場となる13施設について、障害者団体や市町とともにレイアウト等を確認し、選手・役員などの動線に配慮したバリアフリー化のための基本設計を行いました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p><b>○開・閉会式の準備</b></p> <p>・式典総合プロデューサーの助言を得ながら、演技展開案を作成して演技伴奏曲と振付を制作するほか、式典音楽の楽曲を制作するなど準備を着実に進め、式典実施計画を策定します。</p> <p>・開・閉会式会場への参加者の送迎を確実に実施するため、必要なバスの台数把握や実走調査などを行います。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>福井らしい式典の開催に向け、開・閉会式の全体スケジュールや役員・選手団の入退場方法などを盛り込んだ式典実施計画を策定しました。</p> <p>式典演技については、作成した演技展開案に基づき、演技伴奏曲と振付イメージの制作に着手しました。また、式典音楽については、使用する曲の作編曲を行いました。</p> <p>開・閉会式会場への参加者の安全かつ確実な送迎に向け、開・閉会式を含む国体・障スポ期間中に必要なバスの台数を調査するとともに、近県のバス協会（石川県、富山県、岐阜県）に対し、バスの提供を依頼しました。</p> <p>また、大型バスによる実走調査を行い、J R福井駅からの経路確認のほか、福井運動公園周辺の駐車場予定地における乗入れ部の段差解消や右左折の際のはみ出しに伴う車両停止位置の変更など、輸送計画で対応が必要な箇所を確認しました。</p>
<p><b>○広報・県民運動の推進</b></p> <p>・県の各部局や市町、より多くの企業や団体と協力し、1県民1参加、1県民1スポーツ、1県民1自慢の県民運動を推進します。</p> <p>・国体と大会の開催機運を醸成するため、国体と大会の残日数を表示するボードのJ R福井駅等への設置、会期を示した横断幕の小中学校等への掲出、公式ポスターのデザイン制作を行います。</p> <p>・多くの県民が新県民歌を歌う機会を増やすため、音楽の授業や式典、行事、県内の吹奏楽団による演奏等を活用して普及を図ります。</p> <p>・リオデジャネイロ五輪への出場を決めるなど活躍している本県選手や期待の若手選手を、広報紙や新聞特集記事等において紹介することにより、県民が選手を応援する機運を高め、競技力向上を支援します。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>民間団体や市町等が実施する行事のうち、国体・障スポの盛り上げにつながる行事を「県民参加プログラム」として公認し、広報やマスコットキャラクターの参加等の支援を行い、国体・障スポ開催に向けた機運を醸成しました。</p> <p>開催2年前に合わせ、県庁やJ R福井・敦賀駅にカウンタダウンボードを設置するとともに、小中学校等に掲出していた横断幕を、大会名や会期等を入れたデザインに一新しました。</p> <p>また、公式ポスターには、国体用と障スポ用の両方に障害者スポーツのイラストを掲載するとともに、福井の豊かな自然や県内の特産品を背景に取り入れて、幸福度日本一の福井を全国へアピールできるデザインとしました。</p> <p>入学式、卒業式等の学校行事や市町の各種行事、スポーツイベント等での斉唱ならびに中学校音楽教科書副読本や小学校古典音読・暗唱ノートへの歌詞等の掲載により、子供たちをはじめ県民が、新県民歌に親しむ機会を増やしました。</p> <p>12月に開催したスポーツフェスタや広報紙「はびねすマガジン」等を活用して、本県出身のリオオリンピックやパラリンピック出場選手の、世界の舞台における経験談や福井での国体・障スポへの意気込み等を紹介しました。</p> <p>また、若手選手やチームの横顔、選手らをサポートする指導者の思いを地元新聞で紹介し、県民の、選手を応援する機運醸成を図りました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p><b>○ボランティアの確保</b></p> <p>・運営ボランティアについて、社会福祉団体や企業などに協力を要請するとともに、秋からパンフレットやホームページ等に情報を掲載し、募集を開始します。</p> <p>・聴覚障害のある選手などへの手話や要約筆記を行う情報支援ボランティアの養成を開始します。また、県内の看護・福祉・教育系の大学や専門学校とともに、障害のある選手に帯同する選手団サポートボランティアを養成するための体制を整備します。</p> <p>(平成 27 年度 情報支援ボランティア 一) 情報支援ボランティア 450 人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>運営ボランティアの募集を9月から開始し、パンフレットや広報紙等で周知するとともに、市町の社会福祉協議会やボランティア団体等に説明するなどして広く県民に参加を呼びかけて、登録者数の確保を図りました。</p> <p>手話や要約筆記等の経験者等を対象に、情報支援ボランティアの募集を開始するとともに、リーダー養成研修会の開催や、29年度から始まる養成研修用のカリキュラム作成を通し、障害者スポーツ大会の運営に必要な人材の確保および養成に向けた準備を行いました。</p> <p>また、県内の全ての大学、短大および看護・福祉系専門学校15校を選手団サポートボランティア養成協力校として委嘱し、連絡会議を開催しながら、29年度から各協力校が開始する養成研修に向けた準備を行いました。</p> <p style="text-align: right;">情報支援ボランティア 502人</p>

**【実施結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)  
or 目標を達成しました。(さらに強化します)(例:数値目標を達成したが、課題が残るもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)